

貞静学園短期大学 専任教員紹介

項目	内容
名前	笹川康子
研究テーマ	<p>予測困難な時代にあって、生きていくために一人ひとりが「科学的なものの見方や考え方」を身に付けていなければ急速な変化に対応することができない。このためには幼児期から「科学的なものの見方や考え方」の素地を培っていくことが何より大切である。</p> <p>その素地を基盤として幼小接続を経て、高等教育まで連続と続く学びの道がある。どの学校段階の教員であっても、子どもが「何を学んできているのか」そして「これから何を学んでほしいのか」という流れを頭に入れた上で、現在対象とする子どもの教育内容を吟味検討しなければならない。</p> <p>自然界の様々な事象を対象としているが、中でも「生物」に主眼を置き、幼児期の領域「環境」、小学校「生活科」、その後の理科教育を担当する教員を養成している、養成校の学生への指導法について研究している。</p>
所属学会等	<p>日本生物教育学会</p> <p>日本教科教育学会</p> <p>日本保育者養成教育学会</p> <p>日本保育学会</p> <p>家庭教育学会</p>
主な著書・論文等	<p>保育実践に生かす保育内容「環境」 教育情報出版</p> <p>こどもの世界 こどもと自然/科学 III 大学図書出版</p> <p>都市緑化植栽樹、街路樹等に用いられる堅果植物の環境教育・生物多様性教育・生態系教育への活用の可能性—SDGs を目指して— 貞静学園短期大学 研究紀要（第12号）pp.5～12（2021.3）</p> <p>生物教育と言語教育の連携による科学的思考力育成教材の開発 —領域「環境」及び領域「言葉」分野の相互性と幼小接続を重視して— 貞静学園短期大学 研究紀要（第11号）pp.5～20（2020.3）</p> <p>教育基本法の改正に伴う教育目標「環境の保全に寄与する態度」について—教員養成課程学生への生物多様性の理解に関する環境教育の重要性 貞静学園短期大学 研究紀要（第10号）pp.15～22（2019.3）</p> <p>領域「環境」における科学的リテラシーの育成およびその後の教育への接続—シングルエイジの教育を目指す学生への科学的リテラシーの育成：マイマイ（カタツムリ）を用いて— 貞静学園短期大学 研究紀要（第9号）pp.17～36（2018.3）</p> <p>生活科の学びと理科での学びの関係—理科学習仮説設定時の生活科や幼児期の体験に着目して— 子ども総合研究 No.3 大妻女子大学家政学部児童学科オンライン・ジャーナル pp.1～15（2018.2）</p> <p>教育法の改正に伴う教育目標「環境の保全に寄与する態度」を養う為の幼少期教員養成課程学生への環境教育について—1.「生態系」の理解への取組— こども臨床研究 第3・4号合併号 大妻女子大学家政学部児童臨床センター pp.32～40（2017.3）</p> <p>幼小接続における幼小期教員養成課程学生の科学的リテラシー育成能力の習得と指導法習得をめざす取り組み 日本教科教育学会全国大会論文集（第43回全国大会）pp：220-221（2017.9）</p> <p>理科教育分野の幼小接続の重要性と課題—保育者養成課程における領域「環境」と小学校教員養成課程における「理科教育」への接続— 貞静学園短期大学紀要 第7号 pp.27-38（2016.3）</p> <p>保育者養成課程における領域「環境」の指導—小学校理科教育へのつながりを見据えて—大型哺乳類への取り組み① 貞静学園短期大学紀要 第4号 pp.29-43（2013.3）</p> <p>保育者養成課程における領域「環境」の指導—「持続可能な社会づくり」のための保育者の資質を養う— 貞静学園短期大学紀要 第3号（2012.3）</p>
主な研究活動	<p>研究テーマに沿って、様々な研究をするために文部科学省から科学研究費を取得し、研究を続ける。</p> <p>科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基礎研究C（一般）「課題番号：16K04795」 2016～2018年度 テーマ「理科教育における幼小接続の重要性・教員養成のための指導法の開発」 研究代表者 笹川康子</p> <p>研究成果を地域貢献に生かすため、文京区内の児童館で製作・実験体験実施。文京区の文京アカデミア講座として、本学で「親子で楽しもう！科学あそび」を開催。</p> <p>領域「環境」と小学校「理科教育」との幼小接続の研究のため、大妻女子大学家政学部児童学科で非常勤講師として小学校理科教育の指導法開発。</p>